

大原草紙

第79号
令和4年4月
春季号

私の大原ベストポジション



来迎院町

上村（旧姓中村）

真紀子



つくだの風景

大原を離れ二十五年近くが経ちましたが、子供が小さいころ一緒に散歩をしたり、父が畑仕事をするようになってから、何十年も遠ざかっていた田んぼ道を再び歩く機会が増えました。昔とほとんど変わらないつくだの田んぼの中を歩くと、もう四十年以上も前の小学生のころの記憶があれこれ蘇ってきます。

今では考えられないくらい厳しかった当時の担任の先生。一旦、先生のお説教が始まると、その日の授業は取りやめになり、延々と何時間も先生のお話が続く、ということも珍しいことではなく…。途中で先生の話を聞く集中力が途切れてしまった私は、早く家に帰りたいなあ…と内心考えながら、木造校舎の教室の窓から遠くに見えるこの風景を眺めたものです。

また、当時は大原は観光客でとても賑わっていて、週末だけではなく平日も三千院や寂光院の参道は観光

客でいっぱいでした。三千院への参道が私の通学路でもありましたが、時々、そんな賑わいを避けるように、この田んぼ道を友達とのんびり帰りました。帰宅後はまたここで、れんげやクロパーでネックレスをいくつも作ったり、笹の葉っぱでふねを作ったり、水路に流したり、スキの茂みの中で秘密基地ごっこをしたり、お尻が緑色になるまで草の上をソリのように滑り降りたりと、五時のサイレンが鳴るまで遊んだ子供にとってはパラダイスのような場所でした。

日ごろ、観光客の方と接していると「大原はええとこですなあ」と言われることが時折あります。若いころは地元大原の良さを感じるよりも大原の外へ外へと目が向いていきましたが、大原を離れ、年齢を重ねると、そのようにおっしゃる気持ちがよくわかるようになってきました。今日も田んぼの中を歩くと聞こえるのは風の音と鳥の声だけ。時間が止まったようなこの美しい大原の里は、もう二年以上も続くコロナ禍の憂鬱をも忘れさせてくれるまさに「ええとこ」です。

京都大原里づくり協会 の存続を決定

昨年5月29日開催された第20回総会で新理事会が発足しました。しかし、コロナウイルスの感染拡大を避けるため前年に引続き活動は抑制的にならざるを得ず、さらに、理事の高齢化等により当会の存続そのものを12月までかけて検討してまいりました。1月17日開催された理事会で存続を決定しました。

現理事会の任期は今年5月開催予定の第21回総会まで。それまでの間、コロナウイルスの感染・拡大の懸念から引続き活動は抑制的にならざるを得ません。また、更に第21回総会についても、コロナウイルスの感染状況によっては3年連続して会議開催を取り止め議決書によることも懸念されますので注意深く今後の推移を見守ってまいります。

理事長からご報告

第21回総会は新たな一歩

西田 誠

私にとって理事長就任は真剣に考えた末の事でした。もうすぐ81歳でそう長い時間がない事は客観的な事実です。2年間と期限と定

め、当里づくり協会がコロナと共に歩む今と将来、人と人の関係が希薄にならざるを得ない時、大原にとって里づくり協会が貴重な役割が果たせるよう努めます。20年超えの歴史で培った当会の伝統や活動作風について、皆さんのご意見を聞きながら次の世代にスッキリ引継げるよう取り組みます。そのため自らの姿勢を明らかに致します。基本スタイルとして、2年間を次の世代に引継ぐための準備期間と位置づけて

- ① 組織運営はガラス張り、透明感のある民主的な運営に努めます。
- ② 異なる価値観の存在を認め合う運営を大切にします。

旧JA大原の建物の 利用アイデアを募集中!!

JA大原の建物が、地元大原に貸してもらえそうです。どんな風にご利用したいでしょうか？アイデアを募集しています。五月末までに「大原草紙の西田編集小屋」までお願いします。

大原古文書研究会 再開に向けて

上田 壽一

最近、大原農協初期の定款を見る機会がありました。様々な事が書かれています。趣旨は「組合員の生産した薪炭類を売り、不足している肥料・塩・油等を購入する」とあります。その単純明快さに心を動かされました。研究会を続けたいと思います。

初回は自治会文書「初寄合諸事定帳」を取り上げます。大原八ヶ村の取り決めです。

- 猪狩の日程
- 日雇の手間賃
- 江文祭礼の事

その中心は猪狩で、当時八ヶ村にとって猪対策がいかに重要であつたかが分かります。

第一回の研究会は三月三日に公民館で行いましたが、次回ぜひご参加ください。古文書が読めなくても大丈夫です。

川辺

上田 壽一

犬の散歩に親水公園によく行く。そして色々な場面によく出会う。夏は水泳場となるし、スマートボール場にもなっていた。ゴルフ場から流れ着いたボールを土手にころがせて点数をききそうの。冬はソリ。土手のスロープがちょうどいい。男の子は勢いあまって川の中。もちろん雪だるまにもであった。でも、ベンチに雪だるまはやめて下さい。私がすわれません。私の夢はベンチにすわってリスに出会う事なのです。



三千院門跡小堀光實 第63世門主 晋山式 が執り行われました



去年11月1日付けで就任された小堀光實大僧正の晋山式が3月30日執り行われました。新門主は就任以来、大原バスターミナルでの京都バス100周年記念ラッピングバス「大原女号」の特急運行セレモニーや京都大原学院の長年にわたる国蝶オオムラサキの保護活動が評価された同校での、文部科学大臣賞を受賞報告会に出席され、取組みの歴史を聞き入っておられるなど、積極的に大原地域にかかわっておられます。なお、当、大原草紙は前号から題号揮毫をお願いしています。

新門主にお聞きしました。

【先々代光詮門主は仏門の師僧であり父親、師父の門主は「信仰と観光の両立」とよく話された。】

(問) 会合や法要の際に三千院の立ち位置の話をよく聞きました。新門主はいかがですか。

「師父は、僧侶として法灯を守り、伝教大師の教えを広め、三千院を通して大原をPRしました。大原観光のリーダー拡大です。今日、コ



ナウイユスの感染拡大を防ぐため我慢の時期ですが「明けぬ夜はない」。三千院は魚山声明と仏法作法の道場、僧侶が僧侶としての努めに励み、皆さんと共に大原の里を魅力ある里として活性化させたいと考えています」

(問) 京都大原学院での国蝶オオムラサキ取組み報告会に出席された、その印象は。

「取組みを聞きドラマを見た思いでした。小中一貫校で9年間、地域の人とオオムラサキ保護にかかわり文部科学大臣表彰という栄誉を受けられた。生徒の皆さんの励みになるでしょうね」

「地域ぐるみで大原学院を育てている思いを感じました。われわれ僧侶も地域社会の一員として、子どもたちと触れ合う場を設けたいと思っています。師父の頃サマースクールも行われていたようですから、青少年の思い出に残る場の大原そして三千院を目指したいですね。〔文責：西田〕

略歴
小堀光實 昭和28年、大津市出身、大正大学仏教学部卒、昭和54年延暦寺一山寂光院住職を拝命、延暦寺副執行法務部長、同管理部長等歴任。平成26年より延暦寺代表役員執行を2期6年間つとめ、現在進められている「祖師先徳瞻仰大法会」「根本中堂大改修」等の指揮を執られた。



タブレットを持って 孫娘がやってきた

上野町 久保齋

秋の連休に小学校四年生の孫娘がタブレットを持って泊まりに来た。

「ああ、これがGIGAスクール構想で子ども一人一台支給されたタブレットか」と興味を示すと、学校で習ったことを自慢げに教えてくれた。「宿題で自然観察するから、じいじ、一緒に来て」といつてタブレットを持って畑に行くとパシャパシャと撮影しだした。「観察したこと書かなくていいの」というと「写真だけでいいよ」って先生が言ったよということだった。

春に来た時の自然観察と随分様子が違っていた。タブレットを持っていなかった時は色鉛筆で一生懸命観察したことを子どもなりに表現し、文章で伝えようとして手や脳を使っていたのに、パシャパシャじゃ、孫娘の脳も手もなにも鍛えられてないじゃないかと不安になった。

デジタル機器は便利だけれど、教育には不向きだと思う。子どもは自然の中で仲間とうんと遊んで身体と心を鍛えて欲しいし、学校では読み書き計算など基礎基本がしっかり鍛えられて、自分の言葉で、自分の手で、自分の文章で自分を表現できる子に育ってほしいと思う。私たち大人はパソコンもスマホも子どものうちから習ったわけではないけれどちゃんと便利に活用している。タブレットの活用など大人になってからで十分だと思う。じいじが孫娘に望むのと同様に、大原の子どもたちにもタブレットなんていじくってないでこの大自然の中で、思いっきりやんちゃして友だちと一緒に少年少女時代を謳歌してほしいと思う。



森に起こる ゲームチェンジ

西村辰也

森林・林業には課題ばかりと言われ続けて久しいが、山村に暮らしていると、身近に伐採を目にする機会も増え、自分が働き始めた十数年前よりは、確実に林業の動きを感じられる時代になった。しかし、ここ最近、森林の実務に携わる者として、もっと大きな変化を感じている。異分野からの森林へのアプローチの増加だ。SDGs、脱炭素がインセンティブとなり、森林との関わりを求める企業等が急増していると感じる。それも、これまでのCSRとしてのアプローチを越え、森林への貢献を、本業のビジョンへ落とし込もうとするような本気のアプローチが目立つ。見知った顔だけで回っていたニッチな業界で、今まさにゲームチェンジが始まっている。

他にも、森林空間を活用した様々な取り組みが、「森林サービス産業」と呼ばれるビジネスモデルになりつ

つある。中でも「森のようちえん」をはじめとした森を活用した幼児教育・保育は注目されている動きの一つだ。花粉症や災害など、時として厄介者扱いされてきた山林だが、昨年来のウッドショックと称される木材好景気もあり、伐採によって木がお金に変わる。その伐採跡地の整備された森林空間が、森のようちえん等に活用され、かつては鹿の鳴き声が寂しく響いていただけの森に、次世代の子どもたちの笑い声が響く光景は、過疎に悩む山村と、待機児童等に悩む都市における、ひとつのwin-winの形にも見えてくれる。もちろんコロナ禍で加速したキャンプ需要などにも同様のスキームがはまる。伐採したから終わりではなく、立地は選ぶが、むしろ伐採跡地の活用が高い付加価値が生まれている。伐採跡地で何をするか？から逆算して進める森の仕事の形があってもいい。まさにゲームチェンジだ。これまでの業界の定型「木材の価値を上げる工夫と、補助金の活用で何とか採算を取る」だけで終わることなく、その先にある大きな可能性も視野に入れれば、先人がこれまで投下してきた森林育成経費の回収にもつながる可能性がある。

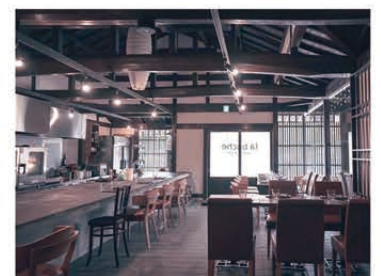


上記はまだ少数ない成功事例かもしれない。しかし、先人が我々に残してくれた森林資源が、先人の思いもよらぬ形で価値を生み出していることは事実だ。この先も何が起こるかわからない。このような形で毎日ワクワク仕事をするようになると思ってもよらなかった。現在の森を育ててくれた見ず知らずの先人が、自分と与えてくれた機会に感謝したい。仕事と子育てに忙殺されながら、人と森との理想のあり方を追求したいと願う自分にとって、思いもよらないアプローチが必要なのだろうと大原に来て6年目の春の日に思う。

西村辰也 大原に移住して6年。森林・林業技術職員として地方自治体に勤務。4歳と0歳の子どもと妻の4人暮らし。野村町在住。
 ※SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標。17の世界的目標、169の達成基準、232の指標からなる持続可能な開発のための国際的な開発目標。
 ※CSR(Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任。企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任のこと。ここでは主に環境への配慮を指す。

薪焼きビストロ la bûche (ラ・ブッシュ)

3月22日(火)開店



大原の野菜や鶏肉など、自然の恵み豊かな食材を使用した、クラシクなビストロ料理を提供するレストランが新規オープンしました。店名の la bûche はフランス語で『薪』の意味。素材の魅力を存分に引き出せるよう、薪焼きの手法を用いて調理されたフランス料理がいただけます。シェフの森尚平さんは大原出身、地元での独立を目標に、本場フランスや東京で修行を積んでこられました。

大原バスターミナルより徒歩2分
 ☎075-600-9196 大原来迎院町400-3
 営業：12時～18時
 月曜定休



※車での来店時は近隣の
 駐車場をご利用下さい
https://www.instagram.com/labuche_ohara/

いま 京都大原学院で



令和4年度 京都大原学院行事予定

- 4月6日(火) 着任式・始業式
7日(水) 入学式
15日(金) 授業参観
26日(火)～28日(木) 9年生修学旅行 長崎方面
5月17日(火) 大原大掃除
※雨天延期5月24日(火)
6月4日(土) 運動会
※雨天延期8日(水)
代休6日(月)
27日(月)～7月1日(金) 8年生生き方探究
チャレンジ体験
29日(水)～7月1日(金) 6年生 大原探究
7月20日(火) 1学期終業式
8月24日(水) 2学期始業式
- 9月13日(火)～16日(金) 5年生 三千院宿泊学習
23日(金) 休日授業参観
代休26日(月)
10月14日(金) 文化祭
27日(木) 全校マラソン?
※雨天延期11月4日(金)
11月8日(火) 大原提言
9日(水) 収穫祭?
15日(火)～16日(水) 6年生 発見旅行 広島方面
22日(火) 研究報告会
12月23日(金) 2学期終業式
1月5日(木) 3学期始業式
3月15日(水) 卒業式
3月20日(月) 修了式

令和3年度の京都大原学院各種行事はコロナウイルス感染拡大の影響から、9年生の修学旅行は沖縄方面から長崎を中心に実施時期も9月から11月下旬に変更、運動会は参観なしの実施、その他規模縮小など、大きな影響を受けました。令和4年度の学校行事予定をお尋ねしました。これらの主要行事も新型コロナウイルスの感染状況によって、今年度も中止・延期・規模縮小等の対応がとられます。「？」は特に中止・延期・規模縮小等の変更が考えられます。



ドングリ園と オオムラサキ

大原オオムラサキを守る会
会長 藤野 適宏

「大原の自然豊かな環境の中をオオムラサキが飛び交い、民家の軒先にまでやって来て初夏を演出してくれる」ことを願って、2005年(平成17年)にオオムラサキの保護活動が始まりました。

その活動拠点の一つに、親水公園傍らのドングリ園があります。ドングリ園に植えられたクヌギを中心とした落葉樹から出る樹液が、オオムラサキ成虫のエサになるのです。2010年(平成22年)に植えられたこれらの木々は今では大きく育って、樹液にまぎやってきましたのはカブトムシやクワガタムシでした。そのほかにも多くの昆虫が誘われてやって来て、ついにオオムラサキも来てくれました。

穏やかな高野川の流れの傍らのドングリ園で、緑豊かな木々と様々な昆虫たちを観察できるのは何と幸せなことでしょう。しかし、これらのことを実現するには、少しお膳立てが必要でした。クヌギは何もしなければ、ほとんど樹液を出さなかったのです。そこで、毎年6月初めにクヌギの樹皮に傷を

付けて、樹液を出させるのです。この傷は数カ月する自ら修復してしまうので、傷を付ける作業は毎年行います。不思議なことに、傷を付けても樹液が出る木とでない木があり、樹液が出て虫たちが来る木と来ない木があります。この違いの原因は何なのか、サツパリわかりません。あるいはつける傷の深さが関係しているのではないかと思うこともあります。傷つけから始まって、昆虫の飛来の様子を継続的に観察できれば、オオムラサキにとってより良い環境づくりのヒントを与えてもらえるかもしれません。

また、ドングリ園には数本のエノキがあります。エノキはオオムラサキ幼虫のエサです。エノキで育った幼虫は、寒くなると木を降りて、落ち葉の中で冬を越します。幼虫が落葉の中にいるかどうかを確かめたり、落ち葉が風で散らないように工夫するのも、オオムラサキの保護活動にとって重要な事だと思えます。





れんさいマンガ
* 78 *
アズマツネオ



大原で楽しく身体を動かそう



大原健幸の郷

大原健幸の郷は2020年8月、大原野村町にオープンしたフィットネス施設。京都大原記念病院グループの理学療法士や作業療法士、トレーナーが個別の運動プランを提案したり、フィットネス器具の使い方も丁寧に教えてくれます。大きな窓の外には比叡山と大原の里の四季の眺めが広がっているのもこの施設ならではの魅力の一つです。広々とした空間の屋内施設なので寒暖や天候に関わらず継続してじっくりと運動に取り組めます。是非、大原健幸の郷を皆様の健康づくりにお役立て下さい。詳細はお電話にてご確認下さい。



問合…大原健幸の郷
(13:00~19:00)
火曜定休
07574445170
(代表)
大原野村町4981

「パデル」は1970年代に誕生したテニスとスラケットスポーツで、子どもから高齢者まで、運動経験や能力を問わずに楽しむことができます。2013年に日本に上陸し、コートがあるのは京都ではここ大原だけです。現在大原のキッズやシニア向けのレッスも行われています。

Y'sスポーツガーデン パデル京都



表紙の横顔

《編集部から》

「近年見かける幼馴染、顔見知りの方シリーズ・2」結婚や就職を機会に大原を離れた方々に大原への想いを写真と手記で振り返って頂きました。

上村真紀子さんのプロフィール

大原の高齢者世代は皆ご存じの中村正明さんの娘さん。学校を出て先端を走る精密機械メーカーで働き、結婚後子育てのため退職。以来、左京区内の自宅から実家の「喫茶・囲炉裏」で働いて20年。このお店も創業50年余りになるといふ。観光客であふれ返った時代もバブルがはじけ陰り始めた時代も、今コロナで閑散とする大原も見ている。朗らかで明るい笑い声が絶えない真紀子さん。大原も再び明るく賑わう日ははやく見たいものです。

健康づくりやコミュニケーションの場として、大原の心地よい四季折々の自然を感じながら一緒にパデルをプレーしてみませんか。
問合…
09075545923
大原勝林院町4451

ウォーキングから 考える健康づくり



大原小出石町住民の方向けの健康イベントが3月26日(土)大原記念病院と体育振興会の連携事業として開催されました。理学療法士の方から健康づくりに大切なことについてお話を聞いた後、参加者と共に屋外でのウォーキングの予定でしたが、雨天のため室内で正しいウォーキング法を指導していただきました。